

24年産 野菜・果物 トレンドを振り返る-4-

農業総合研究所「産直白書2024年版」より

農業総合研究所（及川 智正代表取締役会長 CEO、本社一和歌山市、以下「農業総研」）が発表した『産直白書2024年版』より転載。24年の季節ごとの野菜・果物のトレンドを振り返る。

4月：ブロッコリー、キャベツ

春の葉物野菜全般が価格高騰しています。特に高騰が著しいのはブロッコリーです。ブロッコリーは4月の出荷量は1年前の同じ月（2023年4月）と比べて18.6%増加しているものの、価格は22.1%上昇しています。

また、キャベツも高騰しています。出荷量は53.1%と大幅に減少、価格は18.9%上昇しています。

高騰の理由1：暖冬と寒波と曇天が重なったため

24年は全国的に暖冬でした。そのためブロッコリーやキャベツは生育が早くなり、収穫も早まりました。そのため、春の時期の収穫量が少なくなっていました。

価格高騰には暖冬後に寒波が到来、さらに曇りの日が多いことも、大きく影響しています。収穫が早まり、畑で次の栽培をしようとしたと

ころ、寒波で気温が下がり、さらに日照時間が短くなったことで、生育が遅れ、十分な収穫量を確保できなくなり、価格が高騰してしまったのです。

いわば通常では重ならない事象が24年は3つも重なってしまったことが、価格高騰の原因となっているのです。

高騰の理由2：「指定野菜」入りで人気急上昇

ブロッコリーに関しては26年から「指定野菜」に加わることが農林水産省から発表されたことも一因とみられています。「指定野菜」とは農林水産省が「消費量が多く、国民生活に重要」とした野菜です。現在キャベツなど14品目が指定されています。

ブロッコリーは食物繊維やビタミン、ミネラルなど栄養が豊富に含まれています。茹でるだけで食べられるので、調理も手軽です。またブロッコリーにはタンパク質も多く含まれていることで、筋肉トレーニングに打ち込む人々にも人気となっています。

「指定野菜」となったことでブロッコリーの魅力にさらに注目が集まっています。もともと生産量は多かったものの、生産が人気上昇に追いつかず、価格が高騰しているようです。

高騰の理由3：「物流2024年問題」や円安で物流コスト上昇

「物流2024年問題」とは、24年4月からトラックドライバーの年間時間外労働時間が960時間に制限されることによって発生する問題のことです。トラックドライバーの労働時間が短くなっ

たことで、トラックドライバー不足が発生、物流コストが上昇しています。加えて、昨今の円安や原油高も物流コストの上昇に追い打ちをかける状況です。

このまま物流コストが大幅に上昇する一方で、物流コストの上昇分をそのまま農産物価格に転嫁すれば、価格が高くなりすぎて売行きが大きく落ちることも予想されます。

そこで生産者はこれまでは東京などの大都市圏に送っていた農産物を、近隣の都市圏に多く回すようになっています。輸送距離が短ければ、物流コストの負担が軽減されるからです。

これらの理由が同時に重なったことで、東京などの大都市圏に流通する葉物野菜の量が減少し、価格高騰につながっている格好です。

キャベツがブロッコリーよりも価格変動しにくい理由

農業総研のデータでは、価格上昇の幅はブロッコリーよりキャベツの方が幾分、緩やかになっています。これはブロッコリーよりもキャベツのほうが長持ちするためです。ブロッコリーは「足が早い」ため、収穫したらすぐに出荷しなくてはなりません。ですが、キャベツはブロッコリーと比べると長持ちするため、収穫時期を調整しやすいためです。



※写真提供：農業総合研究所